

「コロナ禍における乳幼児への 造形ワークショップと表現活動を通して」

愛知学泉短期大学 幼児教育学科
講師 山本辰典



1. はじめに

昨年度の4月、愛知学泉短期大学大学 幼児教育学科に赴任しました。大学や短大だけでなく、小・中学校、高校などの全ての教育機関が新型コロナウイルスの影響により既存の授業や学内外の活動が制限された年でした。一年以上が過ぎた今年度も多くの制限がある中で活動が求められています。それぞれの仕事へ昨年度着任した方々は、勤務する職場や学校の（前年度までの）本来の姿や様子を知らないままだったのではないかと思いますし、私自身は手探りで活動する日々が現在も続いています。

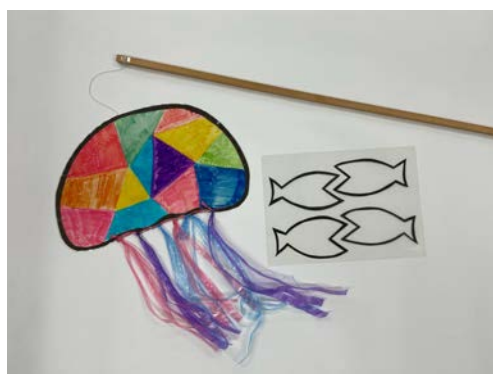
本学幼児教育学科の学生は二年次に、岡崎市内にある「岡崎げんき館」にて、それぞれのゼミの特色を活かした実践活動を行なっています。ピアノや劇、絵本の読み聞かせなど内容は様々です。昨年度は残念ながら全ての活動が中止となりましたが、今年度は感染症対策を十分に行い、実施しています。私のゼミでは造形活動を取り入れ、なおかつ表現活動に繋がられる実践を行おうと考え、この春より準備をしてきました。どのような実践を行う際にもコロナの影響を考え、様々な検討を行わなければいけません。そんな中、表現活動を行うためには、飛沫感染を考慮し、参加者との間にフィルターや一定の距離の準備が必要とされています。そのようにフィルターを設けなければいけないのなら、それを活かした表現活動を行えばいいのではという学生達からの発案があり、影絵に取り組むことにしました。その実践を通して行なった乳幼児への造形ワークショップと影絵の表現活動の紹介を致します。

2. 準備と実践

影絵を用いた表現活動を行うに至った経緯には、先述した通り、参加者との間にフィルタ

一や距離を準備する際に、そのフィルターを活用した表現活動が面白いのではないかと
いう理由がありましたが、その他にも様々な理由があり、本実践へ向かうこととなりました。
乳幼児がコロナ禍で行える造形活動を取り入れる為には、どのような実践活動の構成が考
えられるかも影絵の活動へ至った一助でした。

まずは、「スイミー」を題材とした影絵を行うために使用する投影物の制作に取り掛かりま
した。【1】（※「スイミー」を題材とした理由については今回省く。）黒色の画用紙を切り



【1】制作物



【2】投影の様子

抜き、フレームをつくり、それらをラミネートすることで透過性のある投影物を準備しまし
た。ラミネートフィルムの透明な部分には油性マジックで色を塗り、ステンドグラスのよう



【3】練習の様子の動画（スクリーンショット）

にして、多色の影をスクリーンに映すことができるようにしています。【2】投影物が完成
したら、限られた人員で数多くの影絵を動かすために学生達は何度も動作練習を行いまし
た。【3】

実践当日、親子10組（子ども11人、保護者10人）が参加して下さいました。造形ワ

ークショップの際に乳幼児が扱う油性マジックや魚の制作物などは会場へ持ち込む前に念入りに消毒を行い、参加者へ配布する際にもビニール手袋を使用するなど感染対策には十分な配慮をして活動しました。活動後の保護者アンケートにおいて「マジックを初めて子どもに使わせました」と回答もあり、とても小さいお子さん達も参加して下さったこと感謝しています。また、各地で様々な参加型の催しが中止になる中で「(造形活動のある)今回の活動に参加できて親子共々楽しかったです」という感想も頂くことができました。今回、学生達は造形活動中、参加者の方から一定の距離を保つため離れた位置から声をかける程度の関わりとしました。そのため色塗りの活動に関しては保護者の方におおよその補助をお願いしました。【4】幼児の中には自分の制作した魚がスクリーンに映し出された場面を見て【5】、光に照らされる色を確認し、影絵終了後に返却された自分の制作物(魚)を宙に透かして見ている様子もありました。【6】



【4】色塗り(造形活動)



【5】子ども達の制作物が登場するシーン

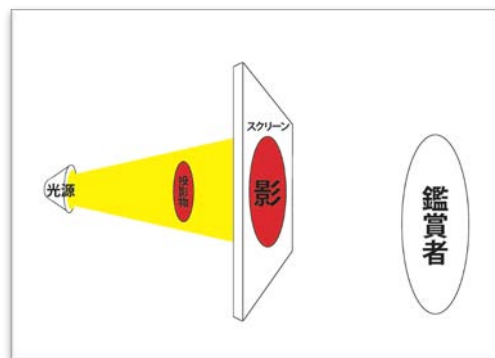


【6】影絵終了後に作品の返却

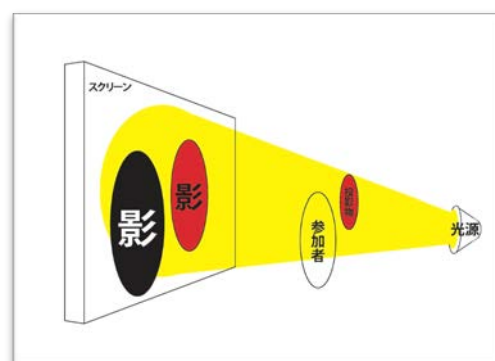
3. おわりに

今回の造形活動を活かした影絵の実践では、演者や投影物と鑑賞者の間にスクリーンが設けてあった為、鑑賞者は見るだけの参加でした

【7】。乳児が多かった今回の実践では、なかなか影絵を鑑賞するまでに至らなかった為、次回案として、光とスクリーンの位置を変えることで乳幼児が影絵の中に参加できるような、インタラクティブな表現活動【8】を展開できればと学生達と共に考えました。そのためには、コロナによる活動制限が少しでも緩和されて実践活動を行えるようになることが不可欠です。しかし、多くの課題を克服しながら実践を進めていくことが造形活動における本質なのではないかと思うので、今の状況を楽しみながら本実践を次へ繋げていきたいです。



【7】



【8】